

大丸有SDGs ACT5 アクションレポート 2025



CONTENTS

目次／実行委員会メンバー	02
ご挨拶	03
概要	04
アクション一覧	05
今年度サマリー	06
ピックアップピックス	07
ACT5 アクション事例	
ACT1 サステナブルフード	08
ACT2 環境	10
ACT3 ひとと社会のWELL	12
ACT4 ダイバーシティ&インクルージョン	14
ACT5 コミュニケーション	16
メディア掲載一覧	18
丸の内ポイントアプリ	19
インパクト調査	20
丸の内ポイントアプリ ご協力店舗マップ	24
有識者からのコメント／参加者からの声	26

実行委員会 役職等は2026年2月時点

実行委員長

四塚 雄太郎

三菱地所株式会社 代表執行役執行役専務

副委員長

土田 智子

農林中央金庫 常務執行役員

牧江 邦幸

株式会社日本経済新聞社 常務取締役

委員(順不同)

村木 美貴

千葉大学大学院 工学研究院 教授

内海 智江

農林中央金庫 常務執行役員
女性活躍・ダイバーシティ推進責任者

後藤 不二巳

農林中央金庫 食農法人営業本部
法人営業第二部長

杉本 昭彦

株式会社日経BP
常務執行役員

白木 芳憲

丸の内熱供給株式会社
常務執行役員

石井 みずほ

大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会 都市機能部会長

竹内 和也

一般社団法人大丸有環境共生型
まちづくり推進協会 専務理事

後藤 泰隆

三菱地所株式会社
まちづくり推進部長

井上 成

三菱地所株式会社
まちづくり推進部担当部長

大谷 典之

NPO法人大丸有エリアマネジメント協会
事務局長

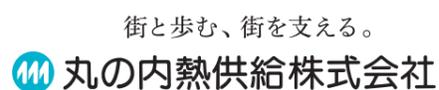
近藤 慶太

株式会社東京国際フォーラム
取締役 (事業推進担当)

吾田 鉄司

三菱地所株式会社
サステナビリティ推進部長

○ 大丸有SDGs ACT5実行委員会



ご挨拶



大丸有SDGs ACT5 実行委員長

四塚 雄太郎

三菱地所株式会社
代表執行役 執行役専務

大丸有から社会へ、ポジティブな連鎖を生み出していきます。

2025年4月、日本では大阪・関西万博が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開幕しました。資源循環、脱炭素、ウェルビーイングなど、SDGs達成に向けた革新的なアイデアが世界各国から集結し、持続可能な社会の具体的なモデルを示しながら、未来に向けて私たちが取り組むべき行動を加速させる絶好の機会となりました。

世界ではCOP30が開催され、気温上昇を1.5度に抑えるため、各国のアクションプランの確実な実行が再確認されました。我が国も、2050年カーボンニュートラルに向けた2030年度目標（2013年度比GHG46%減）達成に向け、取り組みの加速が求められています。これは企業や地域社会が一体となり、未来を変えるチャンスです。

一方、世界では紛争や資源不足など複合的な課題が続いています。こうした困難を乗り越えるためには、協働とイノベーションが不可欠です。危機を「変革の契機」と捉え、持続可能な社会の実現に向けて、企業・自治体・市民が互いに共創しながら着実に前進していくことが重要です。

大丸有SDGs ACT5は、6年間の活動を通じて、企業や団体との連携を着実に広げられました。今後はさらに協働を深め、より大きなインパクトを生み出す仕掛けを創出していきます。2030年に向けて折り返し地点に立つ今、私たちは行動の質とスピードを高め、社会にポジティブな連鎖を生み出す挑戦を続けていきます。未来を共に創る取り組みを、大丸有から発信していきましょう。

地域と都市を結び付け、サステナビリティの実現に向けて取り組んでいきます。

2025年は、全国的に早い梅雨明けによる水不足や猛暑等、農林水産業にはもちろん、私たちの暮らしにおいても気候変動の影響が深刻な一年でした。また、人手不足は喫緊の課題で、地域のくらしや食糧生産の持続可能性が危ぶまれております。

農林水産業は、気候と自然の恵みを活かし、地域と人々の生活を支える重要な産業です。その農林水産業を持続可能なものとしていくためには、ネットゼロ、ネイチャーポジティブといった課題と向き合い、農林水産業、地域、企業、都市といった食農バリューチェーンの川上から川下まで、バリューチェーン全体でトランジションに取り組むことが不可欠です。私たちは、「大丸有SDGs ACT5」を通じて、川上から川下をつなぐ架け橋の役割を担い、皆様とより良い未

来を共創していきたいと考えています。

大丸有SDGs ACT5の活動6年目は、食のサステナビリティを考えるイベント「SUSTABLE」において、被災地である能登の復興と持続可能な社会・食について学び・体験する機会の提供、稲刈り体験を通じて農山村の持続可能性について考える企画の開催等、多岐にわたるアクションをパートナー企業とともに展開しました。

2030年の持続可能な社会の達成に向け、2020年から続けている大丸有SDGs ACT5も、折り返し地点を迎えました。農林水産業を取り巻く環境変化は著しいですが、大丸有SDGs ACT5のプラットフォームを活かし、より一層、地域と都市を結び付けたアクションを展開することで、持続可能な社会の実現を目指していきます。



大丸有SDGs ACT5 副委員長

土田 智子

農林中央金庫 常務執行役員

大丸有SDGs ACT5 とは

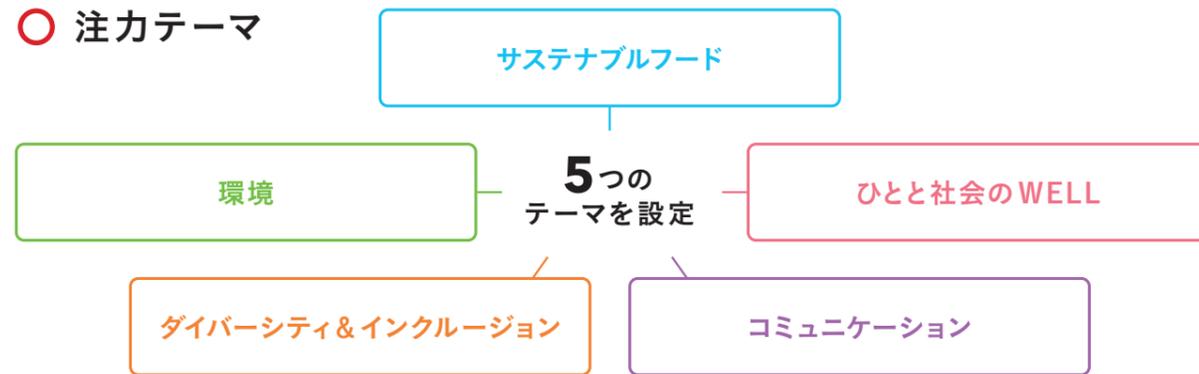
東京駅前、大手町・丸の内・有楽町地区（以下、「大丸有エリア」）を起点として、大丸有エリア内外の企業・団体が連携し、SDGs達成に向けた活動を推進するプロジェクトとして、2020年に始動しました。総合デベロッパーである三菱地所、地域の一次生産者を支える金融機関である農林中央金庫、日本を代表する経済メディアである日本経済新聞社ら複数の企業、団体が実行委員会を組成し、お互いの持つ様々なリソースを持ち寄り、具体的なアクションの創出を目指しています。

2020年より毎年様々なステークホルダーや多くの地域と連携を図っており、今年度は約80社と連携しながら、



44個のアクションを創出。参加者は6年間で延約16万人に上ります。定番となった企画についても時流の変化を捉えながら内容の深化を続けると共に、新たな企画にも精力的に取り組んでいます。

注力テーマ



SDGsに含まれる広範なテーマの中から、実行委員会企業内で注力する重要テーマを設定。

特徴



1 コミュニティの形成

大丸有エリア内外の企業・団体が個社の枠を超えて協業し、大丸有エリアを起点とした社会課題解決型のコミュニティが形成されています。



2 リソースの繋がり

各社の持つリソースが有機的に繋がることで、個社ではなしえない幅広いテーマに対して探求・PJ化が進んでいます。



3 アプリの活用

アプリを活動全般の基盤とすることで、来街者・就業者の行動変容を促進。取得したデータの分析を通じた1、2の加速度的成長を目指します。

アクション一覧

ACT 1 サステナブルフード

- 1-1 “サステナブルフード”を購入して丸の内ポイントを獲得しよう!
- 1-2 サステブル2025 第1回 食べて応援。世界農業遺産『能登の里山里海』に学ぶ、自然と共生する食文化
サステブル2025 第2回 微生物とともに。「発酵」文化から考える、持続可能な未来の醸しかた
サステブル2025 第3回 2050年の食卓はどうなる?日本らしい食の未来予想図を考える
- 1-3 大丸有エリアのシェフ向け「SUSTABLE for シェフ〜大丸有エリアのサステナブルフード試食会〜」

ACT 2 環境

- 2-1 マイボトルを持って大丸有に行こう!
- 2-2 マイバッグを持って大丸有でお買い物しよう!
- 2-3 お気に入りのジュエリーポーチ・ボックスで、限りある資源を大切にしよう
- 2-4 マイお箸を持って、常盤橋タワーの“みそスーパBAR”に行こう!!
- 2-5 エシカル商品のお買い物で「人にも地球にもやさしい社会」へ!
- 2-6 鞆類を大事に使い続けよう。鞆類のケア・修理・回収サービス
- 2-7 大丸有のコスメ店舗で空き容器回収に参加しよう!
- 2-8 屋上で養蜂!?大手町でハチ活を始めよう!
- 2-9 皇居外苑濠での泥と生きもの採取 ～濠プロジェクト～
- 2-10 不要になったメガネ回収に協力しよう!
- 2-11 【大丸有シゼンノコパン】水辺の命を「覗く(みる)」～ハイスベな光学顕微鏡でとことん!～
- 2-12 お濠とお濠の生きものについて知ろう!～濠プロジェクト～
- 2-13 丸の内循環ひろば 一めぐるまち、まるのうちー

ACT 3 ひとと社会のWELL

- 3-1 丸の内/仲通り周辺でプロギング2025
- 3-2 第18回 丸の内ラジオ体操
- 3-3 空と土プロジェクト 山梨県日帰り稲刈り体験ツアー
- 3-4 第19回 丸の内ラジオ体操
- 3-5 「都市の臓器とAI」研究会:都市・人間・AIが織りなす創造の未来

ACT 4 ダイバーシティ&インクルージョン

- 4-1 【E&Jラボ2025】第1回 LGBTQ+推進の虎の巻! ~DEIの逆風下に求められるLGBTQ+施策と具体的なアクションプラン~
- 4-2 E&Jフェス!2025 未来のアタリマエ ~ダイバーシティで次にいこう。@丸の内
- 4-2-1 【E&Jフェス!2025】企業対抗フリースタイルラップバトル
- 4-2-2 【E&Jフェス!2025】『女子と男子』映画上映会&トーク
- 4-3 ~障がいのある子どもたちのための生演奏鑑賞会~「丸の内 Shall We コンサート」
- 4-4 【E&Jラボ2025】第2回 障害者雇用の虎の巻! 法定雇用率達成から定着までのアクションプラン
- 4-5 【E&Jフェス!2025】「対話」を楽しもう! (1部ダイアログ・イン・サイレンスショーケース/2部E&Jラボ 第3回 対話の虎の巻)
- 4-6 みんなで投票!キラキラとアートコンクール 一般審査会
- 4-7 大丸有からつながる!ゆるっとアライ交流会 ~企業の垣根をこえて、ひろがるアライの輪~

ACT 5 コミュニケーション

- 5-1 ACT5情報発信拠点へのチェックイン
- 5-2 大丸有SDGs映画祭2025
 - 第1回 ミッション・マンガル 崖っぷちチームの火星打上げ計画
 - 第2回 ラスト・ツーリスト
 - 第3回 AI関連短編映画特集
 - 第4回 最も危険な年
 - 第5回 食べることは生きること ~アリス・ウォータースのおいしい革命~
 - 第6回 野生の島のロズ
 - 第7回 ペーパーシティ 東京大空襲の記憶
 - 第8回 聲の形
 - 第9回 大きな家
 - 第10回 難民アスリート、逆境からの挑戦
- 5-3 日経大丸有SDGsフェスティバル



奈良漬のミニあんみつ



った」「発酵文化を絶やさないよう、買うだけでなく自分で作ってみたい」といった参加者の声が寄せられました。最終回となる第3回のテーマは「未来」。気候変動や一次産業の担い手不足といった課題が山積する中で、2050年の日本の食卓のあり方を考えました。これまで食資源として光が当たらなかった未利用魚や藻に関する取り組みが紹介され、企業の食従事者の参加も得ながら、「さまざまな角度から社会課題を

理解できた。自社でできること、生活者としてできることを進めていきたい」「明日からの自分の行動を変えようと思う」といった、持続可能な未来への行動を促す場となりました。また、全3回を通じて販売会も実施し、参加者がその場で食材を購入できる仕組みを導入しました。得た学びを、日々の食の選択や行動へとつなげる貴重な機会となりました。

アクション 1-2

“おいしく・楽しく”学べるプログラム
「SUSTABLE (サステイブル) 2025
～未来を変えるひとくち～」

「作り手」、「使い手」そして「食べ手」が集い、
未来の食を考える

「SUSTABLE (サステイブル)」は、持続可能性に配慮された食材(サステナブルフード)の普及を目指し、2021年度にスタートした試食つきセミナーです。「食」にまつわる社会課題を知り、その先の具体的なアクションに踏み出すきっかけを提供することを目的としています。今年度もTOKYO TORCH常盤橋タワー3階のMY Shokudo Hall & Kitchenを会場とし、食の「作り手」である生産者、「使い手」であるシェフ、そして「食べ手」である消費者が一つの会場に集い、サステナブルフードの美味しさを共有しながらそれぞれの立場で課題について考える場として、全3回のプログラムを展開しました。

日本らしい持続可能な食を考える
全3回のプログラム

2025年度のSUSTABLEは、「日本らしい持続可能な食を考える ～ 復興・伝統・未来～」をテーマに開催しました。自然と共生する暮らしの中で育まれてきた日本の豊かな食文化には、持続可能な食の未来を実現するための多くのヒントが詰まっています。第1回は「復興」をテーマに、2024年1月に発生した能登半島地震を背景として、世界農業遺産にも認定されている「能登の里山里海」に根ざす食文化に焦点を当て、日本らしい自然と共生した食文化の未来を考える場となりました。その中で、「3回に1回、5回に1回でいいので、能登の産品を選んでいただくと、3年後、5年後の生産者を支えることになる」「今日の“美味しい”という記憶をどこに残して、『能登に行ってみようかな』『取り寄せてみようかな』と思っていただきたい」といった、生産者からの力強いメッセージが届けられました。第2回では、日本や世界の食文化に根付く「発酵」をテーマに、微生物との共生や、暮らしの中で代々受け継がれてきた発酵文化に触れました。登壇者からは、自然の力を活かす持続可能な食のかたちが紹介され、「思ってもいなかった食べ物も発酵なのだ」と知り、面白か

アクション 1-3

大丸有エリアのシェフ向け
「SUSTABLE for シェフ～大丸有エリ
アのサステナブルフード試食会～」



大丸有のシェフが体験、「食」から学ぶサステナビリティ

大丸有エリアで進められているSDGsの取り組みへの理解を深めていただくことを目的に、「SUSTABLE for シェフ～大丸有エリアのサステナブルフード試食会～」をMY Shokudo Hall & Kitchenにて初開催しました。本イベントでは、大丸有エリアのシェフの皆さまを対象に、食を通じたサステナブルな活動をご紹介します。試食・試飲を交えながら学んでいただく機会となりました。イベント終了後には「実際にメニューで活用したい」との声も寄せられ、サステナブルな食材や取り組みが現場での導入へとつながるきっかけを提供しました。





アクション 2-1~2-8 2-10

日々のアクションによる
丸の内ポイントの付与が定着し、
SDGs活動がますます身近なものに



協力店舗がさらに増え、アクション数は過去最多に。

大丸有エリア店舗でのマイボトルやエコバッグ持参、サステナブルな商品の購入、衣類や雑貨のリペアなど、昨年度に続き、今年度も丸の内ポイントアプリと連動したポイント付与を行いました。今年度は本活動に賛同して下さる協力店舗が48店舗に増え、協力店舗でのアクション数は約22,600件と過去最多となりました。来街者やエリアで働く方々にとって、日々のアクションによるアプリポイントの付与がより身近な存在として定着し、街ぐるみで人々の行動や経済活動を通じたSDGs貢献を促進させることを目指しています。



アクション 2-13

“循環”をテーマにした
2日間の体験型フェスティバル
「丸の内循環ひろば一めぐるまち、まるのうち」

循環型ライフスタイルを気軽に体験。
楽しみながら毎日を変えていく

約5,000事業所が集積し、約35万人が働く大丸有エリアでは、日々たくさんの資源が消費されています。多くの企業が集まるこの街では、一人ひとりの行動の変化が大きなインパクトを生み出します。「循環ワークショップ」では、親子向けのサステナビリティワークショップや、洋服のリペア体験、コンポスト堆肥でのミックスリーフ栽培体験、ロスフラワーを用いたフラワーアレンジメントなど、ACT5協力店舗やテナント企業とも連携して様々なワークショップをご用意し、就業者や来街者約60名の方にご参加頂きました。「循環ブース」では、古着回収を始め、ペットボトルキャップのアップサイク

ル体験やリペアサービス対応、家庭で気軽に始められるコンポストキットや大丸有のイベント廃材をアップサイクルした商品の展示販売など、循環型ライフスタイルを気軽に体験できるコーナーをご用意し、400名を超える方々に気軽に始められる資源循環の取組みをご紹介しました。

まだ広く認知されていない社会課題にも
スポットを当てる

大丸有SDGs ACT5では、SDGsに関連した様々な社会課題をテーマに様々なセミナーやイベントを開催してきました。本イベントでは、フードロス等と比較するとまだまだ知られていない「ロスフラワー」の課題に着目しました。まだ美しく咲いているにもかかわらず、日本では生産された花の約3割が流通や規格の都合もしくはイベントでの一時利用等で廃棄されていると言われています。本イベントでは、大丸有エリアの婚礼施設や生花店の協力により、ロスフラワーに新たな命を吹き込むフラワーアレンジメントワークショップを開催しました。少し茎が長かったり、花びらの大きさがバラバラだったり…そんな個性溢れる花々の魅力を楽しみながら、花を取り巻く社会課題について学びました。



アクション 2-9

皇居外苑濠での泥と生きもの採取
～濠プロジェクト～

三菱地所は、かつてお濠に生息し、現在は消失してしまった水草の系統保全と、泥に種子が眠っている可能性のある水草の復元に挑戦しています。今年も、ACT5では、皇居外苑と大丸有エリアの生物多様性について学び、考えることを目的に、大丸有ワーカーと実際にお濠に入って泥と生きものを採取し、お濠周辺の水辺に棲む小さな生きもの観察会を実施しました。

アクション 2-12

お濠とお濠の生きものについて知ろう！
～濠プロジェクト～

STEM教育を推進することで、次世代を担う人材育成に力を入れているカールツァイスと連携し、小学生のお子様とその保護者を対象とした濠プロジェクト連動企画を開催しました。高性能な光学顕微鏡での生きもの観察や、お濠の浄化をサポートしている浄化施設の見学などを通じて、子どもたちとお濠と大丸有エリアにおける生物多様性について学びました。





アクション 3-1

**丸の内／仲通り周辺でプロギング
～ジョギング×ごみ拾い＝フィットネス～**



ゆるーくジョギングしたり、「ナイス!」と声をかけあいながら、街に落ちているごみを拾う「プロギング」は、北欧生まれのSDGsチーム・スポーツです。今年で5年目となるこのイベント、今年度は計7回、開催しました。

今年度の新しい取り組みとして、大丸有エリア企業のクリーンアップ活動や、社会貢献活動と連携して、「ACT5×ひとまちプロギング2025」、「ACT5×ハーマンミラー・プロギング2025」も開催しました。

個人参加や立地企業からの参加など、バラエティーに富んだチーム構成で、大丸有エリア等で働く方々、この街のファンの方々が、一緒にSDGsアクションを通じて仲良くなり、交流する機会にもなっています。



アクション 3-2 3-4

**丸の内ラジオ体操
ランチタイムに丸の内仲通りでリフレッシュ**



丸の内仲通りの風物詩となっている「丸の内ラジオ体操」。今年度は初夏と秋に、各7回づつ、計14回、実施協力しました。

全国ラジオ体操連盟の先生方からのワンポイントレッスンや、ティップネスさんによるウォーミングアップ企画などもあり、各回、大丸有エリア就業者等、多数の方々に参加いただき、ランチタイム終わりのリフレッシュにぴったりな企画となりました。



アクション 3-3

**空と土プロジェクト
山梨県日帰り稲刈り体験ツアー
～サステナブルな農業を楽しむ～**



三菱地所グループでは「都市と農山村がお互いに元気になる社会」を目指し、2008年より自治体や現地NPO法人「えがおつなげて」と連携し、耕作放棄地を開墾・復田し、農薬を使わないサステナブルな農法による酒米と食用米の生産に取り組んでいます。

今年度はACT5との連携企画として、お米作りの集大成である稲刈り、はざがけを通じて、お米がどのようにしてできるのか、体感できるツアーを開催しました。



アクション 3-5

**「都市の臓器とAI」研究会
都市・人間・AIが織りなす創造の未来**

「都市の臓器とAI」研究会は、都市や人間、AI（人工知能）がどのように関わり合い、未来の社会や芸術等に影響を与えるかを考える場として、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 清水知子研究室・毛利嘉孝研究室との共催で、今年7月にスタートしました。専門家やアーティストが集まり、都市を「臓器」に見立てて、情報や技術が人間や環境にどんな役割を果たすのかを話し合いました。毎回、AIの進化によって生まれる新しい価値や課題、創造性の広がりについて、身近な例や実際の創作活動等を通じたプレゼンテーションと、参加者と一緒に未来の都市や暮らし、働き方、時に人間のあり方について白熱した議論が丸ビルホール&コンファレンスと東京藝術大学上野キャンパスで、全7回繰り広げられました。





アクション 4-2

E&Jフェス! 2025 未来のアタリマエ
～ダイバーシティで次にいこう。@丸の内

対話でつながる—ラジオ公開生放送や
ドラッグクインショー、ラップバトルなど
多彩な企画を通じて多様性を発信!

「E&J」は「D&I (ダイバーシティ&インクルージョン)」をアルファベット順にひとつ進めたもの。「D&Iを一步進め、誰もがEnjoy & Joinで推進していこう」という思いを含め、楽しくD&Iについて体験・知るイベントを、今年も2日間にわたり開催しました。

今年のテーマは「今こそ、対話しよう。」。世代・性別・文化・価値観の違いから分断が取りざたされる今だからこそ、対話を通じてお互いを知り、理解し合うことの大切さを再確認することを目指しました。当日はラジオ局J-WAVE(81.3FM)の番組公開生放送、映画上映&トーク、迫力のドラッグクインショー、ラグビーパブリックビューイング&ブラインドラグビー体験、農福連携商品の販売ブースなど、多彩なプログラムを実施。さらに今年初となる企業対抗フリースタイルラップバトルや、「サストモ」と連携したスタンプラリーなど、新しい試みも加わり、延べ17,000人の参加者で会場全体が活

気に満ちました。

また協賛6社をはじめとする多くの企業・団体と連携し、就業者から来街者、ファミリーまで幅広い層が参加。訪れた人々からは「対話の大切さを実感した」「多様性を楽しみながら学べた」との声が寄せられました。

楽しみながら多様な価値観に触れ、互いを理解するきっかけを提供した2日間。E&Jフェスは、誰もが“Enjoy & Join”しながら多様性の未来を考える場として、今年も大きな一歩を刻みました。

COMMENT



大丸有SDGs ACT5 実行委員

内海 智江

農林中央金庫 常務執行役員
女性活躍・ダイバーシティ推進責任者

2023年に始まったE&Jフェスは、2年目に「わたし(自分)らしく生きる」、「ともに生きる」をテーマに、そして3年目の今年は「今こそ対話しよう」へと進化してきました。

毎年参加する中で、大丸有エリアからの継続的な発信が、行動する人を着実に増やしていることを実感します。性別や障がい、世代、立場、企業を越え、互いの違いを認め合い、楽しみながらつながる空気、まさにEnjoy & Joinの輪が会場を包んでいました。

自分らしさから対話へ。D&Iがまた一歩前に進んだこの熱量を、ぜひ一緒に広げていきましょう。

アクション 4-1 4-4 4-5

E&Jラボ「LGBTQ+推進の虎の巻」
「障害者雇用の虎の巻」
「対話を楽しもう!」

今年度のE&Jラボは全3回で開催。第1回は「LGBTQ+推進の虎の巻!」として、DEI逆風下に求められる施策のあり方を有識者と企業ゲストが解説しました。社会背景の整理から各社の取組、継続のために仲間を増やす重要性まで、多角的な学びが得られました。第2回は「障害者雇用の虎の巻」。障害者雇用を義務から価値創造へと視点を転換し、採用・評価・制度づくりなど実践的な工夫を企業ゲストが紹介。第3回はE&Jフェス内で「対話」をテーマに、ダイアログ・イン・サイレンスを60分に凝縮した特別プログラム体験と聴覚障害者の働く環境づくりの事例を共有し、職場の“対話の壁”を越えるヒントを探る機会となりました。

また2026年2月には、複数社で企画から連携し、企業の枠を越えたアライ交流イベントの実施も予定しています。



アクション 4-6

キラキラとアートコンクール 一般審査会～作品
を楽しみながら子どもたちの可能性を応援～

障がいのある子どもたちの可能性を応援したいという思いから、三菱地所が2002年に開始した絵画コンクール。一部の審査は、大丸有エリアの就業者や来街者による一般審査会として、ACT5と連携し開催されました。一次審査を通過した150作品を、700名以上の方に鑑賞いただきながら審査にご参加いただき、子どもたちの作品が持つ力に、多くの方が心を動かされるひとときとなりました。



アクション 4-3

丸の内 Shall Weコンサート ～障がいの有無を越え、
子ども達と音楽を楽しみ、ともに成長する社会へ～

生の音楽に触れる機会として、特別支援学校の皆様を東京国際フォーラムにご招待。クラシックを中心にN響メンバーによる演奏をお届けしました。後半には生徒たちが演奏に合わせて合唱し、会場は一体感とあたたかさに包まれました。大丸有エリアの就業者も参加し、障がいの有無を超えて音楽や楽器の魅力を一緒に学び、触れ合う機会となりました。



アクション 5-3

日経大丸有SDGsフェス 開催報告

「日経大丸有SDGsフェス」は、企業経営者や有識者が一堂に会し、世界と日本におけるSDGsを取り巻く最新動向を共有するとともに、持続可能な未来に向けた課題を明確化し、今後の方向性を探るための問題提起と議論を行うことを目的としたイベントで、2025年度で6年目を迎えました。

本年度は9月に4日間、丸ビルホールを会場に4イベント・27セッションを開催し、46名の学識経験者や企業経営者が登壇しました。多様なテーマで議論が展開され、オンライン配信も実施し、ハイブリッド形式での開催となりました。

2025年度のテーマは「揺るがない約束 持続可能な未来に向けて」。このテーマのもと、SDGsを経済の持続成長を支える基盤として未来世代に伝え、繋げるための取り組みが行われました。以下に主なプログラムを紹介します。

日経SDGsフォーラムシンポジウム

国連事務次長補の野田章子氏が「危機は社会をより良く変えるチャンス」と語り、SDGs達成には危機に直面する人々を取り残さないことが不可欠と強調しました。紛争や災害へのリスク配慮、人間の安全保障を守るための企業や市民の役割を事例とともに提示しました。東京大学の沖大幹氏は、SDG6（水と衛生）の現状を共有し、安全な水へのアクセスがジェンダーや健康、教育に直結することを解説。気候変動や災害の影響を踏まえ、企業が水循環の維持・回復に貢献するための最新ツールも紹介しました。



沖大幹氏
東京大学 総長特別参与・
大学院工学系研究科教授

ジェンダーギャップ会議

早稲田大学教授で東京財団理事長の中林美恵子氏が基調講演を行い、日本と女性を元気にするための政治・経済への大胆な提言を示しました。女性の政治参加を拡大する仕組みや、企業から政治への人材循環の可能性に言及する

とともに、日米比較を通じてジェンダー平等の課題を分析。家庭内の役割分担や働き方改革にも触れ、多様な人材が活躍する社会の実現に向けた視点を提示し、多くの示唆を与えました。



中林美恵子氏
早稲田大学 教授/東京財団 理事長/米国マンスフィールド財団 名誉フェロー/
TOPPAN ホールディングス 社外取締役/グローバルビジネス学会 会長/危機管理
(リスクマネジメント) 研究会会長兼務/跡見学園 理事/日本プロスポーツ協会 理事
聞き手: 羽生 祥子氏 著作家・メディアプロデューサー

本フェスを通じて、SDGsに関連する多様な分野の専門家や実務者が一堂に会し、議論を深める貴重な機会が提供されました。イベント参加者の意識向上に加え、産官学連携や社会全体での取り組みが一層進展することが期待されます。



日経大丸有SDGsフェスの
会場で丸の内ポイントを獲得!

COMMENT



大丸有SDGs ACT5 副委員長

牧江 邦幸

日本経済新聞社 常務取締役

日経SDGsフェス2025は、9月に大丸有エリアで1週間、リアルとオンラインのハイブリッド形式で開催し、3,600名を超える参加者が集まりました。フェスでは、SDGsの重要性を広く発信するため、日経媒体のクロスメディア展開を実施しました。さらに、ACT5ではSDGs映画祭や多様性（E&Jフェス）などのイベントを展開し、これらの集客にも日本経済新聞を活用。大丸有ならではの立体的なアプローチで参加者に訴求しました。

7日目となる2026年は、日経グループの発信力とコンテンツ力をさらに生かし、街の価値向上に寄与し、より大きなムーブメントを創出します。

アクション 5-2

歴史と未来が交差する節目の年だからこそ見つめたい、私たちの社会の現在地。13作品がもたらした気づきと発見「大丸有SDGs映画祭2025」

環境や人権問題をはじめAI、オーバーツーリズム、戦争など「いま考えたい世界のコト」の背景や現場に目を向け、私たちができることを考える

映画とトークを通じて社会課題の現場に触れ、新たな視点を得る機会を創出する場として今年も大丸有エリア内の多様な空間をミニシアターとして活用し、環境、人権、観光、AI、戦争など幅広いテーマの計13作品を上映しました。

戦後80年、大阪・関西万博開催年という節目の年であることも考慮し、映画を選定。『ペーパーシティ』では東京大空襲の生存者の証言を通じて歴史を見つめ直し、『ラスト・ツーリスト』ではオーバーツーリズムの課題と持続可能な観光を考えるなど、上映後のトークを通じて作品が示す問いを深める場を設けました。

オープニングでは、多様な価値観を持つチームが火星探査に挑む『ミッション・マンガル 崖っぷちチームの火星打上げ計画』を上映し、アクサ生命保険CEOの安瀨聖司氏とエリーローズ氏が登壇。D&I推進や多様な人材が力を発揮する組織づくりについて議論しました。

また、KK線(旧東京高速道路)を屋外上映会場に転換し



『野生の島のロズ』を特別上映。歴史ある都市空間の新たな活用可能性が垣間見える試みとなりました。

クロージングでは、東京2020大会に出場した難民選手団を追う『難民アスリート、逆境からの挑戦』を上映。上映後のトークには、オリンピックとして過去三大大会に出場し現在は社会課題やキャリア論など幅広く発信されている為末大氏と、7歳までイランの孤児院で過ごし、俳優活動と並行して難民支援や人権問題に取り組むサヘル・ローズ氏を迎え、「国籍」や「排他と包摂」など作品が投げかけるテーマを多角的に考える機会を提供しました。

今年は計644名が参加し、約4分の1がコアリピーターとなるなど、映画を通じた社会課題の学び場として定着を感じる一年となりました。

COMMENT



大丸有SDGs映画祭2025 総合プロデューサー

井上 成

三菱地所株式会社 まちづくり推進部担当部長

映画は社会課題を解決する決定打にはなりません。しかし、スクリーンに映る一時間余りの物語に身を委ねることで、課題が自分ごとになり、希望が具体へと近づく——そんな小さな変化が生まれることに大きな意味があると考えています。環境、人権、AI、戦争、食、福祉など多様なテーマと向き合った一カ月に亘るお祭りが、人と社会、ローカルとグローバル、歴史と未来の往還を促し、この街に新たな対話を生む機会、場になっていたとしたら幸いです。



メディア掲載一覧

日本経済新聞 全国版 朝刊

副委員長企業の日本経済新聞社と連携し、プロジェクトへの想いや内容について全国版にて広告が掲載されました。

(2025年9月9日付日本経済新聞朝刊「日経大丸有SDGsフェス」広告企画より一部転載)

その他、ACT5のイベント告知として、ACT2「丸の内循環ひろば」(10月15日掲載)、ACT4「E&Jフェス! 2025」(10月2日掲載)、ACT5「大丸有SDGs映画祭2025」(9月11日)に広告が掲載されました。



丸の内循環ひろば



E&Jフェス! 2025



大丸有SDGs映画祭2025

WEB

「E&Jフェス! 2025 未来のアタリマエ〜ダイバーシティで次にいこう。@丸の内」について、特別対談企画記事掲載やイベントレポート動画等が配信されました。

サストモ by LINEヤフー(2025年10月16日、10月19日掲載)



新聞・ラジオ・WEB等

各テーマのプロジェクトが各種メディアに掲載されました。

● サステイブル2025

新聞「北国新聞」(8月4日掲載)、「水産経済新聞」(11月17日掲載)

● 丸の内/仲通り周辺でプロギング第3回

雑誌「ランニングマガジン クリール」2025年10月号(株)ベースボール・マガジン社発行(8月22日掲載)

● E&Jフェス!2025未来のアタリマエ ~ダイバーシティで次にいこう。@丸の内

共同通信・各紙(10月29日掲載)、ニッキンオンライン(10月17日)、J-WAVE告知(複数回)、サストモ by LINEヤフー記事・動画配信掲載(10月16日、10月19日)

● 大丸有SDGs映画祭2025

WEBメディア: TimeOut TOKYO HP内シティガイド(9月8日掲載)、地方活性 Regional Revitalization on ASCII(9月29日掲載)、LEE(10月5日掲載)、Sustainable Brands Japan(10月6日掲載)、サスタビ(12月2日掲載)

● 大丸有SDGs ACT5

丸の内LOVEWalker(12月1日掲載)

丸の内ポイントアプリ

大丸有エリアにおける大きなムーブメントに進化

2024年度より開始した「丸の内ポイントアプリ」との連動は2年目を迎えました。ACT5が主催するイベントや、ACT5協力店舗でのSDGsアクション(P.24ページ参照)に参加することにより、丸の内ポイントとクーポンが獲得でき、貯まったポイントやクーポンは大丸有エリア内の店舗で使用(消費)されるという域内循環を生んでいます。

2025年度のACT5キャンペーンへのエントリー数は19,937名となり、昨年度の登録者数10,771名から大幅に増えました。アクション件数も62,892件と過去最多に。丸の内ポイントアプリを通じて、SDGs活動の輪はますます拡がり、大丸有エリアにおける大きなムーブメントとして進化し続けています。



丸の内ポイントアプリとは

三菱地所が運営するポイントサービスです。丸の内・大手町・有楽町の27施設・600店舗以上でのショッピングやお食事で獲得・利用できる他、アプリ会員限定のお得な情報やイベント情報が満載! ユーザー数: 約40万人 ※2026年1月時点

2025年度活動実績

ACT5キャンペーンエントリー数	19,937 名
ACT5延べアクション参加件数	62,892 件
総ポイント付与数	2,742,640 ポイント

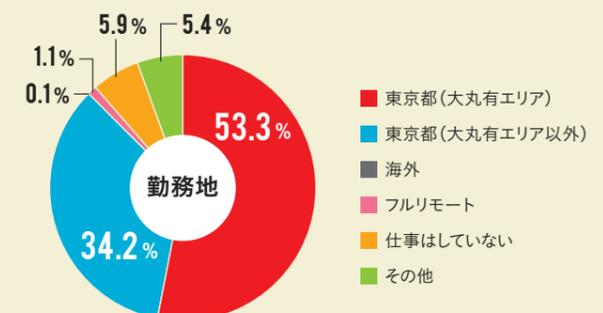
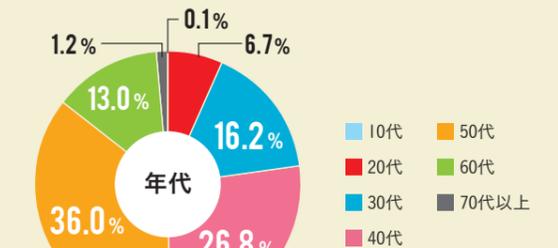
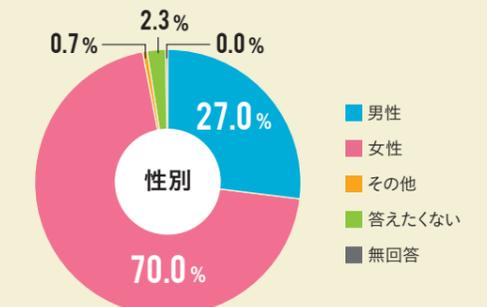
店舗アクション内容とアクション数

(2025/5/7~2025/11/30)

店舗アクション内容	アクション数
マイボトル・マイカップ利用	15,833
ACT5情報発信拠点へのチェックイン	3,603
エコバッグ利用・ショッパー辞退	2,408
資源回収(空き容器、不要になったメガネ等)	533
サステナブルフードの購入	103
エシカル商品の購入	70
マイ箸の持参(店内のお食事・お弁当購入時)	33
ケア・修理・回収サービス利用	31

ACT5キャンペーンエントリー者属性

(N=8,187)



インパクト評価の背景と目的

昨年度から引き続き、ACT5の社会的インパクト可視化についての手法改善・成果取りまとめを実施

大丸有SDGs ACT5では、SDGs達成に向けた様々なアクションを推進してきました。近年、特にインパクト投資分野において、企業によるCSR活動や社会貢献プロジェクトの社会的インパクトの可視化が求められています。インパクト評価に対して一般的にオーソライズされた測定手法は確立していないのが現状です。

ACT5でも活動の社会的インパクト評価手法の開発に着手しており、昨年度は丸の内ポイントアプリを用いたアンケート調査の実施、一部個別アクションのロジックモデル・KPI設定等を行いました。今年度については、昨年度成果を踏襲しつつ、アンケート調査の手法・対象を見直すことで、ポテンシャル推計の精度向上に取り組みました。

ACT5の効果を可視化することで、関係者や社会に対してACT5の社会的意義を効果的に訴求することが可能になると考えられます。今後のACT5の活動拡大、およびACT5の目指す2030年のSDGs目標達成に向けて、今後もインパクト評価による効果の定量化に取り組んでいきます。

▼インパクト評価の成果

大丸有エリアへの愛着向上効果	昨年度から引き続き、ACT5エントリー/アクション参加を通じ、大丸有エリアへの愛着、勤続意識が向上し、関係人口の増加に貢献する可能性が示唆されました。
SDGsに関する意識・行動変容効果	ACT5にエントリーして関連情報に触れること、個別のアクションに参加することを通じて日常生活でのSDGsに対する意識・行動変容が生じている可能性が示唆されました。特に、ACT5のインパクトのうち、「取り込み効果」「参加効果」については広く効果が確認されました。
ACT5各種効果のポテンシャル推計	昨年度構築したポテンシャル推計試算ロジックを改良し、ACT1～5すべてについて、代表的なベンチマーク指標の貨幣価値換算を検討しました。加えて、一部テーマについては市場規模推計も実施しました。

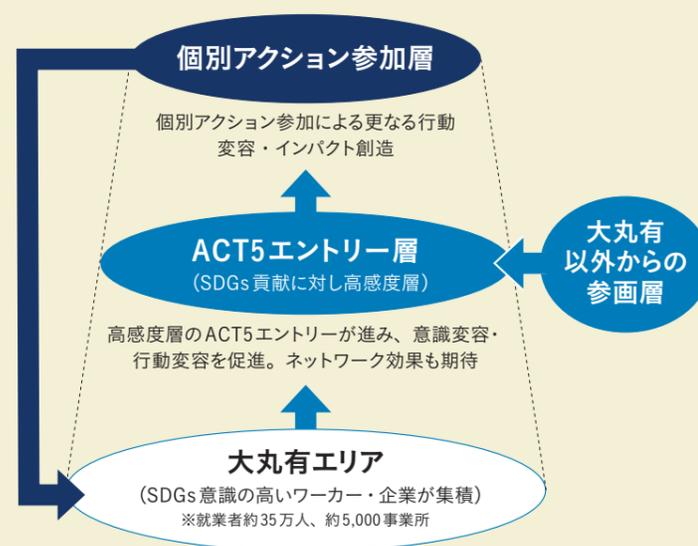
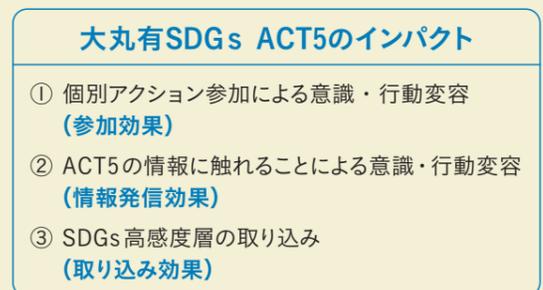
ACT5におけるインパクトの位置づけ

ACT5におけるインパクトを定量化するにあたり、各アクション参加による直接的な効果（参加効果）に加え、大丸有エリアを中心に集積する高感度層を対象に情報発信を行うことによる意識・行動変容を促す効果（取り込み効果・情報発信効果）をACT5の効果とみなし、各種分析・試算（ポテンシャル推計と総称）を行いました。

▼大丸有SDGs ACT5におけるインパクトの全体像

大丸有SDGs ACT5

個別アクションを起点とした取り組み・情報発信を通じ、アクション参加層の行動変容促進からエントリー層への情報提供・高感度層の取り込みまで幅広く貢献

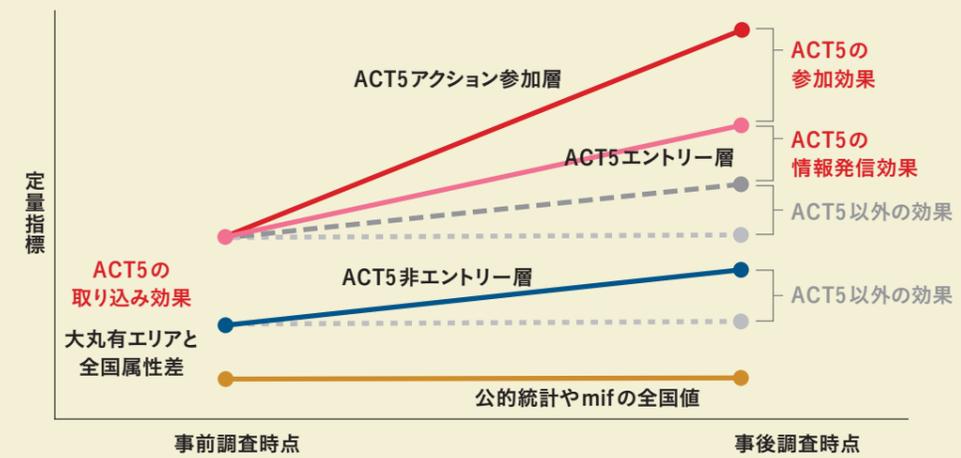


ACT5に関するアンケート調査

昨年度に引き続き、丸の内ポイントアプリユーザーを対象に、ACT5に関するアンケート調査を実施しました。昨年度調査における課題（事後調査のみではACT5期間での前後比較ができない、ACT5エントリー層のみの調査では、大丸有エリアと全国の属性差を考慮できず取り込み・情報発信効果が過大推計となる懸念）をふまえ、今年度調査では、調査対象をACT5にエントリーしていない層に拡大するとともに、ACT5期間の前後に計2回のアンケートを行いました。

ACT5以外の効果（外部環境の変化等）や全国平均との属性差を考慮し、ACT5各効果をより高い精度で把握すると共に、参加したACT5に対する価格妥当性やACT5に係る商品・サービスへの支払意思額に関する設問を新設することで、より多角的にACT5の効果を検証しました。

▼ACT5各効果



ACT1～5について、各アクションと関わりの深い取組やマインドに関する自己評価（原則5段階尺度、一部数値の自由回答）を調査したところ、特に行動変容に関する項目を中心に、ACT5の効果がプラスに働いていることが示唆されました。また、調査全体を通じ、丸の内ポイントユーザーは全国平均と比較してACT5に関する意識が極めて高く、具体的な行動に移している割合も高いことが分かりました。

▼ACT5にエントリー・参加したことによる意識変容・行動変容効果（抜粋）

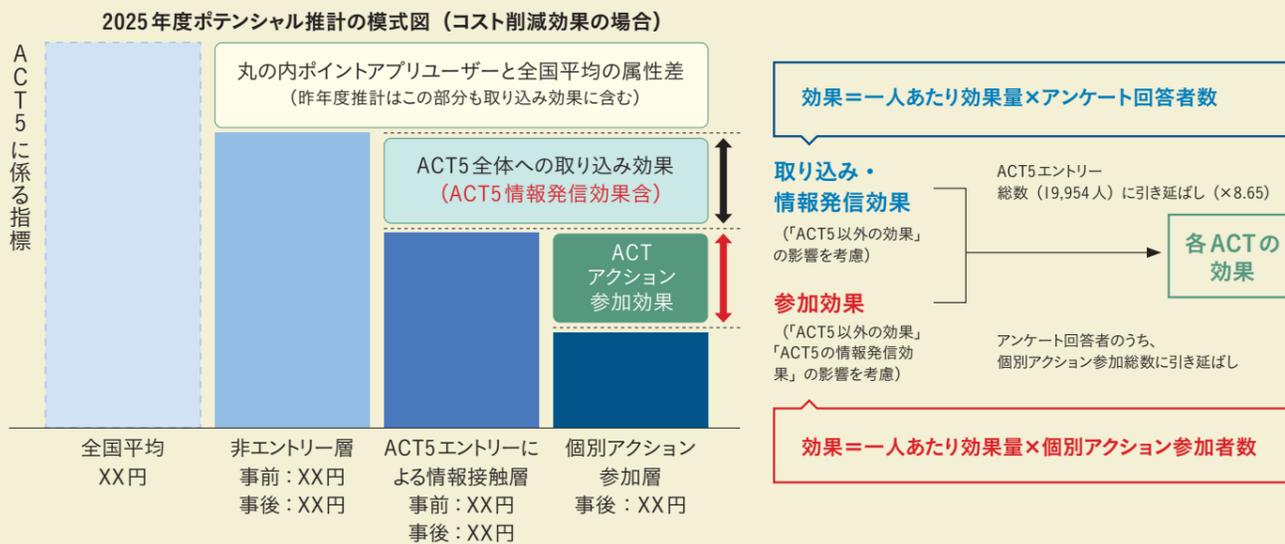
ACT	設問文	全国値	事前アンケート		事後アンケート		効果			
			エントリー無	エントリー有	エントリー無	エントリーのみ	アクション参加	ACT5以外	取り込み・情報発信効果	ACT参加効果
ACT 1	地産地消を心がけ、地元が産地の食品を購入するよう意識しているか	2.90	3.50	3.63	3.58	3.72	3.90	0.08	0.15	0.18
ACT 2	マイボトル、マイカップ利用を心掛けているか	1.91	4.01	4.16	3.97	4.06	4.24	-0.04	0.09	0.17
ACT 3	街や建物でゴミを見つけたら拾うよう心掛けているか	2.20	3.34	3.45	3.35	3.42	3.74	0.01	0.07	0.32
ACT 3	学習・自己啓発、ボランティア活動、スポーツに割いた合計時間（1週間）	3.3時間	6.0時間	6.5時間	5.8時間	6.5時間	7.7時間	-0.2時間	0.7時間	1.2時間
ACT 4	LGBTQ+や障がい者の方々などに対してコミュニケーションやサポートなどに取り組んでいるか	—	2.69	2.89	2.70	2.85	3.36	0.01	0.15	0.51
ACT 5	自分の周囲や世界で起きている社会課題に対し、何かしらの行動をしたか	—	2.89	3.15	2.90	3.09	3.74	0.01	0.18	0.66

ACT5のポテンシャル推計

昨年度構築したポテンシャル推計ロジックを改良し、ACT5と関連が深い指標について、公的統計等から取得可能かつ適切な値（全国平均等）をベンチマークとして設定し、ACT5非エントリー層、ACT5エントリー層、個別アクション参加層について、アンケート結果から仮定を置いて指標値を算出しました。ベンチマークとの差分をそれぞれ全国平均との属性差、意欲層の取り込み・接触効果（情報発信効果・取り込み効果）、ACT5個別アクションに参加したことによる追加効果（参加効果）とみなしてACT5の効果を推計しました。

また、サステナブルフード、環境配慮商品、DE&I配慮企業による商品・サービスについては、追加支払意思額のデータを基に、アンケート回答者を母数とした市場規模（追加支払分）推計を行いました。

▼ポテンシャル推計ロジック



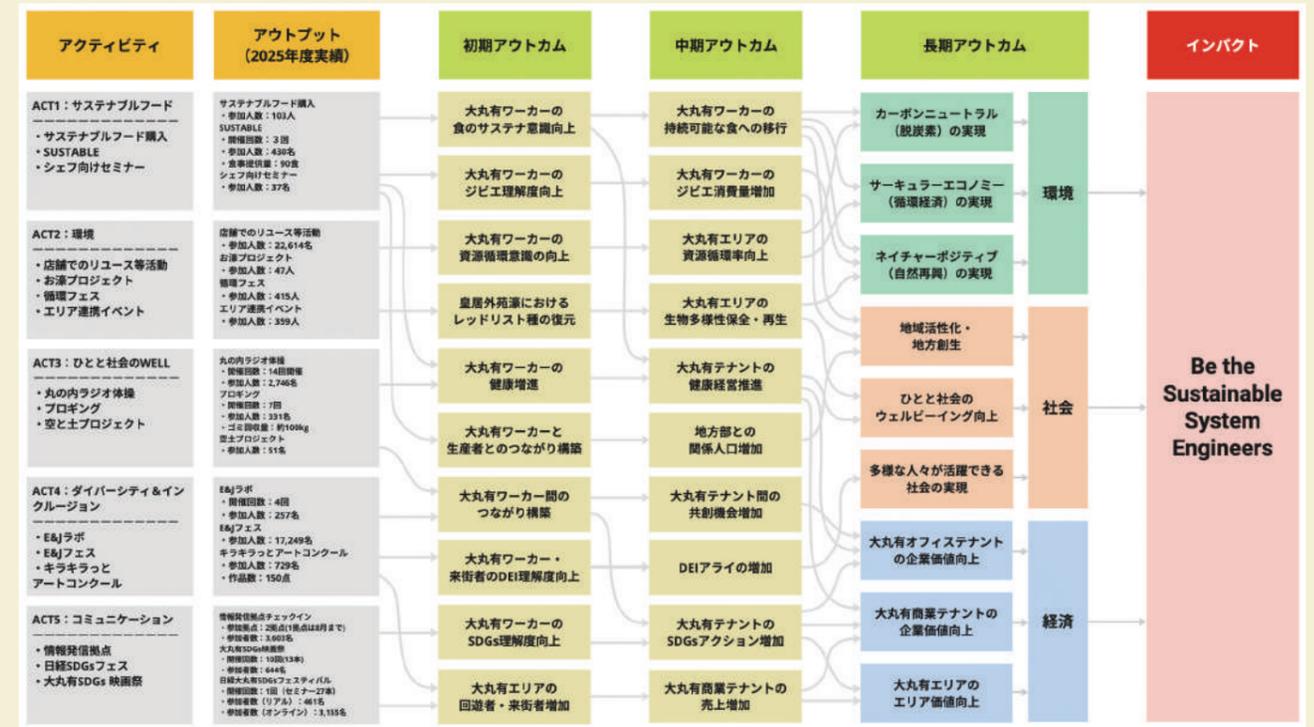
▼ポテンシャル推計結果

テーマ	指標	ポテンシャル推計値
ACT 1 (サステナブルフード)	ひとりあたり フードロス削減によるコスト削減額	取り込み・情報発信効果 2,310万円/年 参加効果 9万円/年
ACT 2 (環境)	ひとりあたり マイボトル利用によるコスト削減額	取り込み・情報発信効果 2,513万円/年 参加効果 64万円/年
ACT 3 (人と社会のWELL)	ひとりあたり 国民医療費削減額	取り込み・情報発信効果 13,967万円/年 参加効果 228万円/年
ACT 4 (E&J)	ひとりあたり コミュニケーション促進による生産性向上額	取り込み・情報発信効果 10,226万円/年 参加効果 232万円/年
ACT 5 (コミュニケーション)	ひとりあたり 年間ボランティア貢献額	取り込み・情報発信効果 1,123万円/年 参加効果 30万円/年

▼市場規模推計結果(アンケート回答者・追加支払分のみ)

市場規模	ACT 1 (サステナブルフード)	ACT 2 (環境配慮商品)	ACT 3 (DE&I配慮企業による商品)
市場規模 (エントリー層のみ)	3,862万円/年	6,702万円/年	7,001万円/年
市場規模 (非エントリー層含む)	4,947万円/年	8,653万円/年	9,120万円/年

ACT1からACT5の各プログラムの施策について、ロジックモデル・KPI設定を行い、中長期のインパクト評価のフローを整理しました。



※Be the Sustainable System Engineers <大丸有SDGs ACT5の2030ビジョン (ありたい姿)>
様々な人が多様な目的を持って集まる、世界に類を見ないSDGs先進エリアの実現に向け、ACT5ならではの先進的かつ本質的な課題設定を行い、旗振り役としてシステム移行をリードしていくことを目指します。

大丸有エリア

ポイント付与ご協力店舗マップ



- ★ ACT5キャンペーン協力店
- ♻️ マイボトル・マイカップ利用
- 🌱 エコバッグ利用・ショッパー辞退
- 🍃 サステナブルフード/エシカル商品の購入
- P チェックインでポイント付与
- 👕 リペアサービスの利用
- ♻️ 資源回収
- 👛 eteマイジュエリーポーチ・ボックスの利用
- 👛 ケアサービスの利用 修理サービスの利用 マザーハウスレザーバッグの回収
- 🍴 マイ箸の持参 (店内のお食事、お弁当購入)

ストーリーとともに進（深）化し続ける、6年目の大丸有 SDGs ACT5

日本を代表するビジネス街を舞台に「大丸有 SDGs ACT5」が2020年に立ち上がってから6年目。2025年度には、ラジオ体操やプロギングなど気軽に参加できるイベントに大丸有エリアで働く人々を巻き込みつつ、協賛企業やポイントアプリを通じたアクティブな参加者の数を前年度から大きく増やしました。さらに、濠プロジェクト・菱循環野菜・丸の内ハニープロジェクトなどストーリー性のあるプロジェクトから生まれた食材を活用した「シェフ向けセミナー～大丸有エリアのサステナブルフード試食会～」は、発信力あるシェフを巻き込む新企画として今後が楽しみです。

2025年、日本では観測史上最高の41.8℃を記録し、「二季」という言葉が新語・流行語大賞のトップ10に入りました。そのような中、国連広報センターとメディアが共同で推進する「1.5℃の約束」気候アクションキャンペーンの公共広告を大丸有エリアのサイネージで流し、気候変動への危機意識と脱炭素型ライフスタイルへの行動意識を促していただきまし



国連広報センター所長
根本 かおる氏

東京大学法学部卒。テレビ朝日を経て、米国コロンビア大学大学院より国際関係論修士号を取得。1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコーディネートを担当。2013年8月より現職。

た。この場をお借りして、感謝申し上げます。

2030年をゴールとする持続可能な開発目標（SDGs）の進捗は、17のゴールの下にある169のターゲットのうち、順調に推移しているものは18パーセントにすぎず、ピンチにあります。大丸有 SDGs ACT5の皆様には、社会の仕組みレベルでの変革を見据えながら、2026年度以降も強力に推進してくださることを心からお願い申し上げます。

能登牛と興す能登



平林 将氏
株式会社能登牧場
専務取締役

S USTABLE 2025 vol.1【食べて応援。世界農業遺産『能登の里山里海』に学ぶ、自然と共生する食文化】に登壇しました。震災という困難の中、ドミニク・コルビ氏が能登牛の魅力を最大限に引き出した一皿は、復興への希望の象徴となりました。畜産農家を守ることは、能登の豊かな文化と生態系を守ること、すなわちSDGsの本質である「持続可能な地域社会」の実現に直結します。この美食の感動を力に変え、震災に屈せず、誇り高き能登の食文化を次世代へ繋ぐため、私たちは歩みを止めません。能登の創造的復興を御覧あれ。

都市の水辺で育まれる、子どもたちのまなざし



田丸 智浩氏
Carl Zeiss SMT株式会社
サステナビリティリード

ホ トリア広場をフィールドに、子どもたちが水生生物同定に取り組みました。顕微鏡をのぞき、手を動かし、対話しながら観察する中で、自然は知識として教えられるものではなく、その場の呼吸感に身を委ね、関わりの中で理解されていく存在であることが実感されます。都市の真ん中に、生態系が息づいていることに気づく体験は、子どもたちの中に、驚きや責任感が芽生えていくことを感じさせてくれました。こうした体験を通じて、世界を自分の目で見つめ、問いを持つ力を育てたいと考えています。

「Day of Purpose」にACTとの連携企画で、達成感とチームビルディングを実感



銅銀 健氏
ミラーノル / ミラーノル財団グループ
バルアンバサダー

ミ ラーノルは、ハーマンミラー、イームズなどのインテリア・ブランドを擁する企業です。今年の11月4日（火）、全世界の社員が社会貢献を行う「Day of Purpose」では、ACT5様にご協力頂き、弊社ショールームやオフィス周辺の大丸有エリアにてプロギングを通して清掃活動をさせていただきました。約50人が参加し、普段から綺麗な大丸有エリアでは持て余すのではと思っておりましたが、15kgを超えるほどのゴミを回収し、達成感と共にチームビルディングも実感することができました。丸の内に根を下ろして15年、これからも地域の皆様と連携し、貢献させていただきます。

参加者の声を活かしてつながる、共生社会への一歩



熊代 悟氏
クアルトリクス合同会社
カンントリーマネージャー

こ の度、「大丸有 SDGs ACT5」主催のE&Jフェスに初めて参加し、DE&I推進の重要性を改めて深く実感いたしました。今回、弊社クアルトリクスの提供するサーベイシステムを通じ、参加者の皆様の声が見える化し、本イベントをより良くするための「対話」のご支援をさせていただきました。社会の分断が課題となる昨今、丸の内に拠点を置くファミリーの一員として、本イベントに携われたことに心より感謝申し上げます。今後も共生社会の実現に向け、継続的にご支援ができれば幸いです。

ともに歩む、アートがつなぐ多様な社会



河合 理恵氏
みずほフィナンシャルグループ
人材・組織開発部
人材開発チーム 次長

み ずほは東京藝術大学との包括連携協定に基づき、地方創生や社会課題の解決に取り組んでいます。その取り組みの一つとして、藝大の皆様とともにジェンダー問題をテーマとした共同研究を進めています。社会とアートの融合が新たな価値を生むと考え、そのプロセスを広く発信するため参加した今回のイベントは、多様な価値観が交わる場となり、DE&Iを考える素晴らしい機会になったと感じています。これからもアートの可能性を信じ、社会課題の解決に向けてともにチャレンジします。

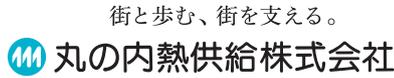
映画を通して東京・大丸有から世界につながる



小林 住彦氏
東京国際映画祭
マーケティング・ディレクター

私 たち東京国際映画祭は、映画を鑑賞し語り合うことで異なる視座への理解を深め、調和のある世界の実現に貢献することを目指しています。映画を通して様々な社会課題についての理解を深める機会となるSDGs映画祭とは共鳴する部分が多く、広報面での連携を続けています。また、SDGs映画祭で上映される作品やゲストには個人的に興味を惹かれることも多いので、観客としても参加してきました。次回はどんな作品に出会えるか、楽しみにしています。

大丸有SDGs ACT5実行委員会



協賛パートナー (五十音順)



協力パートナー (五十音順)

